

令和6年度における果樹カメムシ類による被害

本年度は、4～7月にかけて果樹カメムシ類の果樹への被害が問題になったため、この時期の被害について紹介します。

《主要な果樹カメムシ3種》



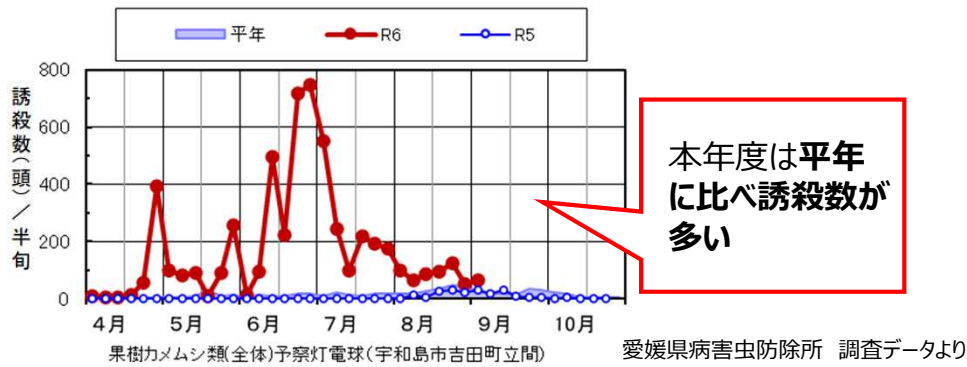
チャバネアオカメムシ



ツヤアオカメムシ



クサギカメムシ



本年度は平年に比べ誘殺数が多い

《果樹カメムシ類による4～7月の果実被害》

● カンキツでの被害

花の被害



つぼみを吸汁するクサギカメムシ

- 本年度は**幼果**への加害が顕著で、**落果**や**異常着色**などの被害がみられた。また、吸汁によって奇形が生じることもあった。
- 吸汁により、つぼみの落下や**新梢のしおれ**といった被害もみられた。

果実の被害



果実を吸汁するチャバネアオカメムシ



果実に生じた奇形

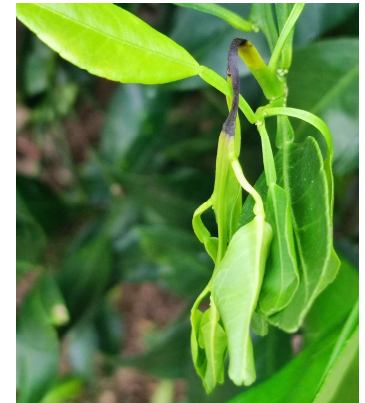


果実の黄化



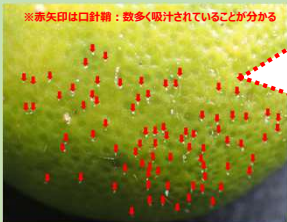
落下した果実

新梢の被害



新梢のしおれ

《被害果に残る口針鞘》



※赤矢印は口針鞘：数多く吸汁されていることが分かる



口針鞘

200µm

- 加害された果実には**口針鞘**が見られる
- カメムシが口針を刺して果実を吸汁したあとに残る**唾液の痕跡**

加害された果実にみられる口針鞘

● キウイフルーツでの被害



亀裂の被害



果皮下に見られる被害



白くスポンジ状になる

- 幼果期に被害を受け、果実に**亀裂**や**コブ**が発生
- 夏場以降の加害では、外見に症状は現れにくいものの、**果皮下に被害症状がみられることが多い**。

- 多発した場合、**開花期～幼果期**でも被害を受ける。
- 本年度の果樹カメムシ類の多発生は、昨年度に餌となる**ヒノキ球果**が多く、**越冬する個体が多かった**ことが原因である。
- この時期の発生量は**前年の越冬量**で予想できるため、病害虫防除所の調査結果を参考にして、**防除の要否を判断**する。